

『花を訪ねて： 水仙』

## とみやま水仙郷散策 (2024年1月5日(金))

新年最初の山行は、前年と同じ『とみやま水仙郷』に水仙を見に行くことにした。ここは「バスタ新宿」から高速バスで行けるので、アクセスが楽で気に入ったのだ。皆さんは新年早々でまだお屠蘇気分が抜けないので、出かける気にならないのだろうか、結局、伊藤(L)、陽田の2名で出かけることになった。

ここには「バスタ新宿」から“予約制バス”で、8時50分発、「アクアライン」経由で南房総市の『道の駅 富楽里とみやま』まで行く。当日は快晴で、アクアラインの海の上からは富士山も遠望でき、10時15分に「富楽里とみやま」に到着した。道の駅の本店舗は新装になって営業をしており、1階は食堂でラーメン、うどん、ステーキ店などがあり、地階が農産物直売所になっていて、野菜、果物、お餅などの加工食品などが売られていた。目当ての“菜の花”もあったので、早速二人でこの“菜の花”を購入したが、一束¥110はお買い得だった。

10時25分、道の駅を出て高速道路をくぐり、平坦な歩道のある道を東に向かって歩く。道の脇には水仙の小群落が目を楽しませてくれる。25分程で『とみやま水仙遊歩道』の入口を示す表示板が現れた。ここから山の斜面を登って行くのだ。伊藤さんが30m程先に「バス停」の標識を見つけて見にゆくと「コミュニティーバス」の停留所だったとか。

細い道を少し登って緩い傾斜地に出ると、山茶花の大木があり赤い花を付けていた。その先で少し急な斜面になり水仙の群生地が現れた。この群生地は細道の両側に広がっていて、蕾が少し残る満開の見頃時期だった。更に登って行くと11時5分に農作業用の道へ出た。止まり木の上に鳥の巣箱のような箱がある、「水仙スタンブラリー 第1ポイント」の表示があった。何故ここが“第1ポイント”なのだろうかと思ひに思ひ。暖かくなったせいか、水仙の芳香がかなり強くなってきた。小休止している間に2組の年配ご夫婦が通っていったが、平日のせいか静かな水仙ロードだ。少し緩くなった道を登って行くと、道脇の草が大幅に掘り返されていた、猪の仕事だろう。水仙群落の間に20個位の養蜂箱が置かれ、蜂が水仙の花蜜を求めて飛び回っていた。蜂は寒くなると死滅してしまうのだが、この辺はそれだけ暖かいということだろう。

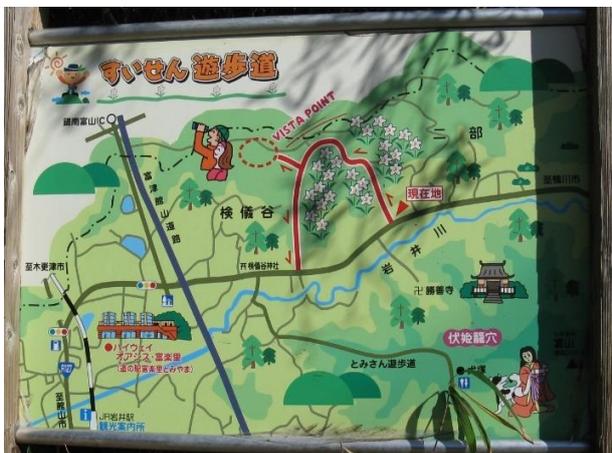
11時40分、「水仙ロード」の最高地点の分岐点に着いた。今日は道は急下り坂だがここから下ることにする。少し下ると「展望台」からの道と合流した。一方期待していた水仙の花群は殆ど無い！急な道と緩やかな道が交互に現れて、やがて緩やかな道になり水仙の群生地が出てきた。そして12時に下の車道に出た。正面に双耳峰の「富山」(トミサン) (“里見八犬伝”の伏姫と八房が隠れ住んだ山とされる)が望めた。

12時12分「道の駅富楽里とみやま」に戻って来た。道の駅の店でゆっくり昼食を摂り、地階の農産物直売所を冷やかしたりして時間をつぶして、13時55分発の「なのはな号」で帰途についた。車中でどうしたら皆さんからご希望を聞き、提案をいただき、参加して頂けるかと話し合いをしたが、結局、こちらから魅力的な計画を出していくことが大切だということになった。途中、君津からは予約の無いお客さんが10人位乗り込んできた、まあこの路線は“絶滅危惧種”にはならないで済むだろうと一安心した。帰日も「アクアライン」の橋の上から霞んだ富士山を眺めることができ、バスの動揺に揺られて居眠りをしているうちに、15時30分に「バスタ新宿」に帰着して、そこで解散した。

以上 陽田



満開の水仙の群生地



水仙遊歩道の入口にあった案内看板